

株式会社 テクノ・システム・リサーチ

URL www.t-s-r.co.jp

東京都千代田区岩本町 3-7-4 TSR ビル

代表取締役社長 藤田正雄

TSR - Press Release

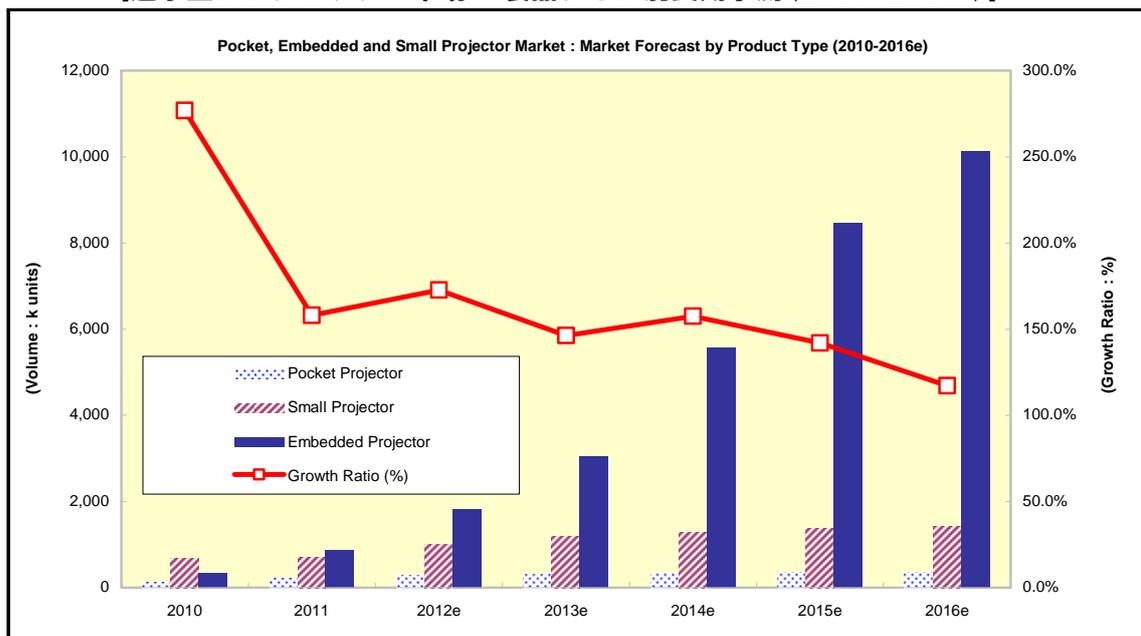
2012年 超小型プロジェクター市場が更なる拡大へ

～携帯電話における搭載（普及）地域の広がりと
写真や動画の投影から変わる超小型プロジェクターの使い方～

株式会社 テクノ・システム・リサーチは『Market Analysis of Embedded and Small Projector 2011-2012』を発刊し、2011年の超小型プロジェクターに関する市場規模を発表致しました。

2011年の超小型プロジェクター市場は、数量規模で約180.0万台、金額規模で約155.5億円となった。2012年現在、超小型プロジェクターを搭載している機器は携帯電話やデジタルカメラ、カムコーダーが主になっている。その中でも携帯電話への搭載につきましては、日本メーカーから中国メーカーへと展開企業が拡大し始めている。

[超小型プロジェクター市場：製品タイプ別長期予測 (2010-2016e)]

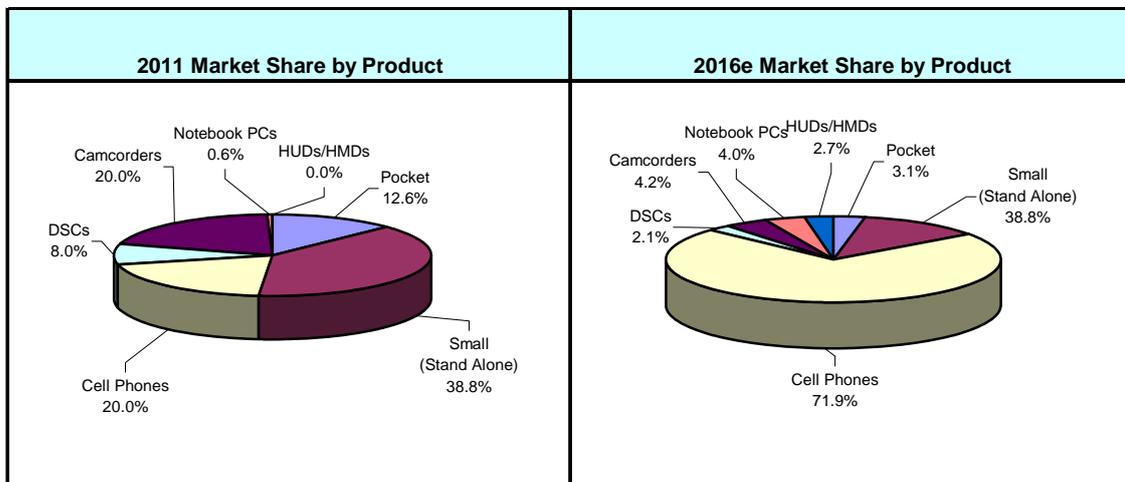


[超小型プロジェクター：利用用途の変化と市場拡大時期]

テクノ・システム・リサーチでは、超小型プロジェクター市場の拡大時期は、2014 年となる可能性が高くなるとみている。前述の通り、Embedded Projector (組込型)市場に関して、2011 年に日本メーカーの機種への搭載が始まり、2012 年には中国メーカーの機種へと搭載地域が広がっている。さらに 2014 年以降に向けて欧米メーカーの機種への搭載が現在検討されている。一方の Small Projector (Stand Alone)市場は、2011 年は緩やかな市場成長となりましたが、2012 年には Smart Phone 向けの Accessory としての普及が進む可能性が高くなっている。

超小型プロジェクターの利用用途としては、以前まで撮影した写真や動画を複数人で共有する使い方が考えられていた。そのため、デジタルカメラやカムコーダーにおいて超小型プロジェクターの搭載モデルが増加している。これからは、このような利用シーンに加え、特定地域に向けた 2nd TV 用途やバーチャルリアリティ (VR) 用途、その他超小型プロジェクターの投影画面を用いた新しい使い方が想定されている。さらに超小型プロジェクターの技術を応用して、今後自動車用ヘッドアップディスプレイ(HUD)や仮想的に大画面を投影するウェアラブルディスプレイ、ヘッドマウントディスプレイ(HMD)等の新規市場への活用も期待されており、これらの要因から超小型プロジェクター市場の市場規模は、5 年後の 2016 年に現在の 6 倍以上へと拡大する見通しとなる。

[超小型プロジェクター市場：搭載製品別の変遷]



※ 詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

【リリース及び資料のお問い合わせ先】

株式会社 テクノ・システム・リサーチ
第2グループ 木村 隼一 (kimura@t-s-r.co.jp)
Tel: 03-3866-4505